

子育てから学ぶこと

ポリテクセンター関西の森岡先生より紹介を受けましたポリテクセンター兵庫の江口です。森岡先生とは、私が職業能力開発総合大学校の電子工学科4年時に、同じ研究室で顔見知りになりました。森岡先生は、お人柄もよく、研究に対する姿勢も熱心であったことが印象的であり、現在も仕事に対して意欲的な姿勢であり、後輩ながらよき先生です。

私は新任でポリテクセンター兵庫に配属され、現在指導員として7年目になります。私事ですが、一昨年6月に長男が生まれました。その息子の子育てから学ぶものをテーマにしてみたいと思います。

現在私の息子は、1歳6ヵ月になります。1歳になると同時に、妻の育児休業が終了して職場復帰しましたので、保育園に入園させました。その保育園の送迎ですが、妻が定時制高校に勤めており、昼から夜にかけての勤務になりますので、送りは妻が、迎えは必然的に私が行かなくてはなりません。またどちらも地元ではないので、両親はもちろんのこと、親類等も近くにいませんので、普段はだれにも頼りません。保育園へ迎えに行き、帰宅すると、息子に夕食（妻が用意したものを温めたもの）を食べさせ、お風呂に入れ、寝かしつけまでやらなくてははいけません。そんな状況で息子との時間を過ごしているわけですが、毎日の生活の中で気づかされることが多くあります。

例えば、最初のころは、食事はまさに「食べさせる」状態で、私が与えないと食べませんでした。今では何とかスプーンや手を駆使して、自分で食べています（ほとんど手ですが…）。あとは、1歳過ぎのころはおしゃべりも「何を言っているかわからない」まさに宇宙語でしたが、最近ではパパ、ママはもちろんのこと、「バイバイ」「キュウキュウシャ」「センセイ」など言うようになりました。人間になってきたなあという実感がひしひしと湧いてきます。

成長も感じられる毎日ですが、同時にやんちゃになってきました。おもちゃはバラまく、私のパソコンのキーはむしりとる…などの被害も出ています。当然ながら息子が起きている間は、家で仕事の続きをできるわけもありません。

現在、息子のやんちゃぶりを目の当たりにしていますが、私自身が子どものころもやんちゃだったらしく、同じように親を困らせていたのかなと思います。「子を持って知る親の恩」という言葉どおり、両親に対するありがたみを今更ながら痛感しています。毎日面倒をみるのは、確かに大変ですが、息子とじっくり付き合えること、成長を実感できること、とても貴重な時間を今過ごしていると改めて思います。

職場の方では、育児に関して、とても親身に配慮してもらっています。保育園の迎えの時間が近づくと、「そろそろ時間だろうから帰っていいよ」といった言葉をかけてもらえ、先輩方より先に帰ることに抵抗がある状況でとてもありがたいと感じています。

今後、職員の方で同じような立場になる方がいましたら、同じように協力していきたいと思っています。

次のリレートークは、ポリテクセンター北海道の茶碗谷先生です。新規採用の年から共にポリテクセンター兵庫に配属され、それ以来、公私でとても親しくしている同僚です。それではよろしくお祈いします。

